

## 第3回收蔵品展

会期 平成4年7月14日～8月16日

博物館では開館以来、年一回収蔵品展を開催しており、今年で3回を数えます。収蔵品展は寄贈・寄託・購入された資料を年度毎に紹介していく企画ですが、今回は昭和62年から平成元年までにご寄贈いただいた資料のうち町方民具を中心に展示を構成いたしました。この期間に寄贈された町方民具は、明治時代から昭和初期にかけて小間物商、薬局などの商家で使われたものが多いのが特徴です。

展示は「着る」「食べる」「住まう」「商う」の4つのテーマで構成しました。

「着る」では、町場の装いとして普段着、婚礼衣装、火事装束、子供の祝い着などを紹介しました。



「着る」「食べる」コーナー

「食べる」ではハレの日に使われた漆器や陶磁器を中心に展示しました。購入年月日が箱の裏などに墨書されたものは特に注目されます。

「住まう」では、昭和初期の居間をイメージし、煙草盆、譜面台など娯楽に関するものや裁縫箱、火のし、鏡台、化粧道具など女性の部屋を想定した展示をいたしました。

「商う」は今回の展示の中心です。



「商う」コーナー

銭箱や日除け暖簾、天秤等の他、宣伝に関する資料を数多く展示しました。写真3は、煙草の配達に使用された箱車ですが、これらは製造元が小売店に配ったもので、少しでも目立つようにと色々な工夫がみられます。その他店の口上を刷った版木など現代の宣伝手段のはしりを見ていただくことができたとと思います。



箱車

会期中には1万人余りの方々にご来館いただきました。

紙面を借りましてご寄贈下さいました方々に厚くお礼申し上げますとともに、なお一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 昨年春のアンケートから その2

### 〔1〕はじめに

博物館だより5号に続き、今回は自由記述意見を紹介いたします。これは、前回紙面の都合により掲載できなかった分で、入館者に博物館についての感想を自由に記入していただくことにより、感想・意見等を今後の博物館の運営に役立てるという目的で行われました。

アンケートの実施時期および期間中の入館者数や回答の回収率については既に前回紹介いたしましたので今回は紙数の関係で割愛させていただきます。

### 〔2〕アンケートの分類について

今回は自由記述意見を取り上げた関係上、内容や表現方法が多岐にわたるため下記のとおり分類・整理して考察することとしました。

#### 1. 常設展示に関するご意見

##### (1) 展示内容に関するご意見

- ①全体に関するご意見
- ②原始・古代、中世
- ③近世
- ④近代
- ⑤民俗
- ⑥体験学習室、ビデオルーム

##### (2) 展示方法に関するご意見

#### 2. 企画展に関するご意見

- (1) 第3回企画展「松平周防守と川越藩」
- (2) 第4回企画展「美の先達者たち」
- (3) 企画展の展示方法について

#### 3. その他のご意見

#### 4. 今後の博物館の事業に対するご意見

なお、2の「企画展に関するご意見」については紙数の関係で割愛させていただきました。

### 〔3〕評価の高い視覚的な展示

川越市立博物館は、その建設過程において、「理解しやすく、親しみやすい」展示を行うこ

とがうたわれています（昭和61年8月27日付川越市立博物館建設委員会第1次中間答申）。したがって、ここで常設展示に対して寄せられた意見は、この展示に対する考え方が入館者に反映されているかを知る上で参考になります。

#### (1) 展示内容に関するご意見

##### ①全体に関するご意見

- ・川越の文化・歴史が、ビデオ、模型などを使いわかりやすく展示されている。
- ・映像により理解を深めるという点を評価する。
- ・模型により、具体的にわかったのがよかった。
- ・視覚的な観点からの展示がよかった。

##### 〈要望・指摘のご意見〉

- ・展示部門ごとの解説書がほしい。（常設展示図録の完成で部分的に対応いたしました。）
- ・1年ぶりの来館だが、一ヶ所くらい変化をつけてもよいのでは？（年1度の全館燻蒸時の臨時休館中に一部展示替えを実施しております。また、民俗展示の「川越の職人」「ふるさとの祭り」については年数回の展示替えを行なっております。）
- ・文書類は重点だけでも活字にしてほしい。

##### ②原始・古代、中世

- ・南大塚の出土品がこんなにあったのか。
- ・太田道灌の映像はよくわかりました。

##### 〈要望・指摘のご意見〉

- ・置き針が何漁用か知りたい。説明がない。
- ・仏像は年代・作者等の説明があるとよい。

##### ③近世

- ・天海上人像が印象に残った。
- ・幕閣における川越藩主の重要性を再認識した。

##### 〈要望・指摘のご意見〉

- ・「町の支配」の町年寄・町名主一覧で新町名も併記してあるとよい。
- ・城下町模型が大きすぎてモニターだけでは場

所がわかりにくい。(平成3年度の臨時休館中に改装工事を行ない改善に努めました。)

#### ④近代

- ・織物市場の模型がすばらしかった。
- ・町並の模型が精巧に出来ており感心した。  
〈要望・指摘のご意見〉
- ・町並でボタンを押すと点灯して場所がわかるとよい。

#### ⑤民俗

- ・子供の頃耳にした“木遣”を聞き、昔の情景を思い出しました。
- ・蔵の作り方の模型が興味深い。  
〈要望・指摘のご意見〉
- ・道具の使用中の写真や使用方法について説明がほしい。
- ・万作踊りのビデオは音が出ず残念。

#### ⑥体験学習室、ビデオルーム

- ・実際にさわって楽しめるところがよい。
- ・ビデオルームで絵を描くのは大人でも楽しめる。  
〈要望・指摘のご意見〉
- ・「遊ぶ」のコーナーはよいと思うが、遊び方の説明を付けてほしい。
- ・視聴覚ホールビデオ上映中、室内が明るすぎて見づらかった。(上映中の消灯により対応します。)

### (2)展示方法に関するご意見

〈要望・指摘のご意見〉

- ・展示室が暗い。
  - ・もう少し文字を大きくしてもらいたい。
- 以上の意見から、ビデオ、模型などについてはわかりやすいという高い評価を得られた反面解説文については量・文字の大きさ等に不満を感じている入館者がいることがわかります。

これらについては、展示台の大きさ、展示する資料の数、美観等の問題があるため今後の課題と考えています。

### 〔4〕その他のご意見

- ・駅から案内板を増やしてほしい。(現在増加を検討しております。)
- ・受付で城下町絵図や川越祭りのビデオ等を販売するとよいと思う。

### 〔5〕今後の館の事業に対する要望

- ・松平伊豆守家、柳沢家に関する企画展
- ・埴輪の企画展
- ・外国人を案内することがあるので、英文パンフレットを用意するか解説を付けてもらいたい。(現在英文パンフレットはございますが他の外国語についても作成中です。)

「その他の意見」、「今後の館への要望」についても様々なご意見・ご要望をいただいておりますが検討の上、今後の課題として考えていきたいと思っております。

また、ご意見の後に( )のあるものについてはご意見をもとに改善させていただきました。

### 〔6〕おわりに

前回に引き続き入館者を対象としたアンケートの結果を紹介しましたが、このように入館者の動向を知るといことは将来の博物館事業推進のための貴重な資料になると考えております。

文末となりましたが、今回ご協力下さいました方々に心よりお礼申し上げますとともに、今後も入館者の皆様のご協力をいただき、今まで以上に「理解しやすく、親しみやすい博物館」となるよう努力していきたいと考えております。

(学芸員 鹿倉 航)



入館風景

## 近世から近代に活躍した川越ゆかりの画人たち

川越は江戸時代から城下町として栄え、江戸の経済を支える商業都市として発展し、また恵まれた自然環境を舞台に、古くから香り高い文化が開花した地でもあります。その繁栄振りは、現在市のシンボルとなっている豪壮な黒漆喰の蔵造りの町並みからも窺い知ることができます。

この歴史と伝統のある川越からは、近代日本の美術に大きな足跡を残した優れた作家が輩出しています。幕末から明治初期の浅草を中心に和洋折衷の泥絵を描いて庶民に人気のあった異色画家淡島椿岳、郷土画家の内田塘景、挿絵、舞台美術の分野で活躍した小村雪岱、再興院展で活躍した日本画家小茂田青樹、戦前文展などで官展系の作家として活躍した洋画家岩崎勝平（1905—1964）などが川越の出身です。また、川越ゆかりの作家としては、川越藩主の御抱絵師の子として生まれ、近代日本画の開拓者として高く評価されている橋本雅邦、川越出身の呉服屋の子で洋風の風景木版画に才能を発揮した井上安治、川越藩士の子で文展、日展などで活躍した日本画家勝田蕉琴などが挙げられます。

また、有力な川越商人たちは有為の芸術家の援助を惜しまなかったため、蒔絵師の柴田是真が支援者の一人であった豪商横田五郎兵衛の屋敷に度々逗留したのを始め、画家河鍋暁斎が門弟の小ヶ谷の名主内田家に寄食していたことな

どに見られるように、江戸で活躍していた多くの芸術家、文人たちが度々川越を訪れています。明治時代に川越氷川神社の祠官、山田衛居が残した「朝日之舎日記」を見ると画人としても活躍した山田衛居と菊地容齋、柴田是真、河鍋暁斎など川越を訪れた芸術家たちとの交遊の様子が分かります。こうした芸術家の往来は、河鍋暁斎から影響を受けた内田塘景のような郷土画人を生み出すことにもなりました。この他、市内の神社や素封家の家などには今日でも円山応挙、谷文晁など江戸期に活躍した画家の作品が数多く残っています。

川越ゆかりの画人たちを支援するための画会も度々組織され、その代表的なものとして橋本雅邦の画宝会、小茂田青樹の青樹会などが挙げられます。その会員には大店の川越商人たちが名前を連ねていますが、これらの大店と呼ばれた商人の多くは米穀商、織物商などで、大正期の恐慌や関東大震災、さらには第二時世界大戦前の物資統制などにより経済的な基盤を失い没落してしまいます。産業経済構造の変化による川越商人の財力の衰えとともに芸術家の庇護者としてのその地位も低下したといえます。

今回の特別展では、近世から近代に活躍した川越ゆかりの画人たちの中から次の11人を取り上げました。

(学芸係長 小林 誠)



春告鳥（小村雪岱）



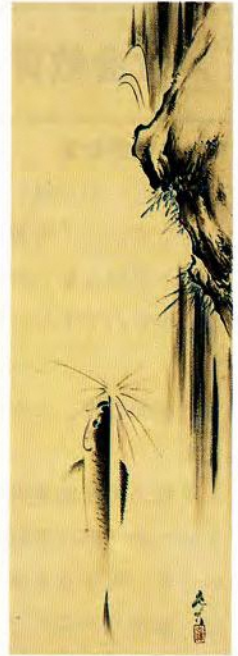
鶉（勝田蕉琴）



牡丹図(森脇雲溪)



鍾馗図(久保提多)



鯉の滝昇り(柴田是真)

## 作家略歴

いのうえ やすはる  
**井上 安治 1864—1889**

浅草に生まれる。父は川越鍛冶町の呉服屋の出身である。版画家の小林清親に師事し、当時光線画と呼ばれた洋風の東京名所風景画を制作し高く評価された。版画表現の新生面を開き将来を嘱望されたが、夭逝した。

しばた せしん  
**柴田 是真 1807—1891**

江戸両国に生まれる。蒔絵、円山派、四条派の絵画を学ぶ。蒔絵、絵画、漆絵に研鑽を積み、工芸意匠に富んだ独創的な作品を制作し海外の博覧会で受賞を重ね高い評価を得た。川越の豪商横田五郎兵衛と親交があり度々横田家に逗留している。明治23年帝室技芸員に任命された。

まの ばいせつ  
**江野 様雪 1812—1873**

東松山に生まれる。狩野派の絵画を学ぶ。天保11年頃から晩年まで川越市内喜多町に住み、絵師として活躍した。寺社などへの奉納絵を数多く描き、川越氷川神社には県指定文化財になっている氷川祭礼絵巻が伝わっている。仏画、花鳥画を得意とした。

と い だ けん さい  
**戸井田研斎 1812—1892**

漢学を学ぶ。旅の途中川越に来て行伝寺門前に私塾を開き町人の教育を行った。後に儒学者として川越藩主に仕え藩校の教授となった。廃藩置県後は前橋に私塾を開いて庶民教育に尽力した。書、文人画などを良くし、多くの作品が伝わっている。

あ わ し ま ち ん が く  
**淡島 椿岳 1823—1889**

川越市内小ヶ谷に生まれる。大西椿年に学ぶ。江戸へ出て幕末から明治初年の浅草を中心に、軽妙な筆致の洋画風の泥絵や南画を描いて庶民の間で人気を博した。奇行に富んだ自由奔放な人生を送った異色画家である。

うちだ と う け い  
**内田 壻景 1825—1899**

川越市内小ヶ谷に生まれる。寺子屋で村民に読み書き、絵などを教える傍ら、文人画などを良くし作品を残している。花鳥画を得意とした。多くの文人墨客と交遊があり、特に河鍋晩斎とは親交を結び、大きな影響を受け晩斎風の戯画なども制作している。

もりお き う ん け い  
**森脇 雲溪 1858—1946**

福島県棚倉町に生まれる。旧川越藩士。南画を学ぶ。明治31年以降東京に居住し画家として活躍した。日本南宗画会を創立し、日本美術協会の委員、審査員を歴任する。内国勸業博覧会、絵画共進会、文展などに出品した。

お だ よ う て い  
**小田 容亭 1859—1905**

川越の鍛冶学校の教員をする傍ら花鳥画で有名な瀧和亭に師事し研鑽を積み制作を行った。教員を辞し、明治35年上京し下谷に居を構え画業に専念したが、3年後病没した。

か つ た し ょ う き ん  
**勝田 蕉琴 1879—1963**

福島県棚倉町に生まれる。絵画修業のため一時川越に居住する。東京美術学校日本画科選科に学び卒業後詩人のタゴールに招かれてインドに渡り仏画を研究する傍ら東洋画を教授した。帰国後は、文展、帝展に出品し官展系の中軸作家として活躍した。

く ぼ て い た  
**久保 提多 1885—1955**

青森県に生まれる。東京美術学校日本画科に学ぶ。卒業後は教員となり大正7年に県立川越中学校に赴任してからは、亡くなるまで川越を活動の本拠とし、教職の傍ら山水画、南画などを制作した。

こ む ら せ っ た い  
**小村 雪岱 1887—1940**

川越に生まれる。東京美術学校日本画科選科に学び下村観山の指導を受けた。泉鏡花の小説の装丁を手掛け洗練された意匠が高く評価された。挿絵、舞台美術にも手腕を発揮し江戸情緒豊かな繊細華麗な美人画も残している。

## 社会教育と博物館(4)

学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する、諸施設と協力し、その活動を援助すること。(博物館法第3条第1項より)

### 野外博物館教室

「最近、引っ越して来たので川越のことを知りたくて。」「川越に住んでいながらよく川越のことを知らないの。」「好きで、市内の史蹟を歩くのですが、説明付きだとありがたいので・・・。」これは、博物館で開催した「野外博物館教室」に参加された方々の一部のお声です。

川越の町は歴史的な文化遺産の多い町です。そのため「町は博物館」という視点でとらえていくと、町を見る楽しみがでできます。たとえば、蔵造りの店のどっしりとした重量感や大きな影盛りなどに、建物のすばらしさを感じますが、火事にたいする備えについてや漆喰の技術の高さなど、なかなかちょっと見ただけでは気付かない一面もあるようです。

ところで、博物館の学芸員というと、なんとなく、少し話にくいという印象がないとは言いきれません。

そこで、博物館側ではより市民の方々と接する機会を持ちたいという願いと共に、市民の方々のもっと川越を知りたいという希望に応える事業としてこの講座を設けました。

これは、川越市立博物館がめざす「知的レク

レーション」の場と機会の提供を実現する事業です。この事業は開館以来続けられていますが、年々参加者がふえています。

本年度は4、5、6、7月に各一回、「石原のささら獅子舞と四門前めぐり」「新河岸川河岸場跡を歩く」「川越城を歩く」「仙波台地、喜多院を歩く」という内容で行ないました。

獅子舞のおこなわれる観音寺を中心に歩いたり、菜の花の咲く新河岸川辺を歩いて河岸間屋を訪ねたりしました。また城跡めぐりでは東明寺の住職の方からお話をいただいたり、古代の川越の史蹟を訪れるなど普段ではなかなか足を運ばないところを見学いたしました。

生涯学習時代を迎えた現在、今よりもっと心豊かに暮らしたいと、多くの方が希望しています。自分たちの住む町は小さい頃から見聞きしていても意外と知らないことが多いものです。心豊かな暮らしとは、ひとつには自分の住む町をよく知り、誇りに思えることだと思います。市民の方々の希望に応える講座を今後も企画していきたいと考えております。

(教育普及係長 水谷 薫)



新河岸川を歩く



川越城を歩く

## 学校教育と博物館(5) 小学校第6学年の博物館活用

博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助しようようにも留意しなければならない。(博物館法第3条第2項より)

「丸木舟って大きくて重そうだなあ。」

「うまくくり抜いてあるけど、どうやってかたい木を伐ったり、削ったりしたのだろう。」

—丸木舟を前にした児童の発言から

本年度も、博物館を活用した小中学生の社会科の授業が始まりました。1学期、教育委員会の用意したバスに乗って来館された学校は18校、小学校第6学年2260名(引率教師も含む)の皆さんです。館内では、資料を観察してプリントに書き込んだり、友達と力を合わせて駕籠に乗る体験をしたりと、さまざまな学習活動が展開されました。

そこで今回は、第6学年社会科の授業における博物館の活用について述べます。

### 1. 事前打ち合せ

社会科の授業を博物館で行うにあたり、事前に先生方に来館して頂き、館職員と活用の仕方について打ち合せます。そこでは、歴史学習に関する児童の興味・関心・普段の授業での資料活用の様子等を踏まえ、一人一人の児童が楽しく取り組むことのできるような学習の計画を立てていきます。

### 2. 1学期の活用事例

事前の打ち合せを通して実施された学習活動の中から、主として原始・古代の展示室を中心に行われた二つの事例について紹介します。

#### (1) 担任の先生が博物館の資料を使って授業を行った例

博物館には、身近な地域の文化財が実物あるいは正確な模型として展示されています。それらを観察することで、児童はさまざまな感想や疑問を実感することができます。児童の感じた疑問を課題として話し合い、必要に応じて別の資料を使いながら解決していく授

業を展開された先生もいらっしゃいました。丸木舟の観察から冒頭に述べたような発言を出し合った学級では、「作り方」を課題として取り組み、道具の制作・使用についての努力や工夫を理解する学習が展開されました。

#### (2) 博物館の資料をスケッチする学習を取り入れた例

博物館では、(1)で述べたように、いくつかの資料を関連づけて学習する方法があります。一方、児童がじっくりと一つの資料を観察し、自分自身の感想を深めていく過程を重視して、土器や埴輪のスケッチを取り入れた学校もありました。

展示室では、児童が自分の選んだ土器や埴輪に真向い、大きさ、色、厚さなどを自分なりの表現の仕方書き込みながら一生懸命スケッチしていました。先生方の話では、学校に戻ってから彩色して廊下に張り出すと、友達のスケッチや感想文にも真剣に目を向けていたそうです。

(指導主事 平野 秀昭)



高階北小学校6年 土田裕佳さんの作品

## ● ● ● た だ い ま 開 催 中 ● ● ●

11月25日(木)から12月20日(日)まで、市制施行70周年記念、第6回企画展「川越の名刀展」を開催いたします。

出品資料は、重要文化財「糸巻太刀 銘友成」（喜多院蔵）、県指定文化財「拵え付太刀 銘長吉」（三芳野神社蔵）をはじめ、(財)日本美術刀剣保存協会（刀剣博物館）所蔵刀や初雁刀剣会及び市民の愛蔵する名刀・郷土刀多数でいずれも本市にゆかりの深いものばかりです。また、刀剣のほかに前橋藩（川越藩）家老小河原左宮所用の甲冑や刀装具、歴史資料なども併せて展示いたします。

この機会に、日本が誇る工芸技術の粋とも言うべき刀剣の美をじっくり鑑賞していただければ幸いです。



### 資料寄贈者名簿

H 3 年	田中 和幸	松尾 鉄城	田中 晃俊	高見沢登美子	大野 万里
	川合 貞夫	宮崎 正雄	原沢 勇吉	須賀 幸夫	時田 貞次
	小谷川肇志	竹田 智彦	新井 西造	畑尾 秀治	荻島 西三
	内山幸太郎	塩野 一郎	前野 文子	小野沢定夫	山崎栄三郎
	島崎 サト	田中 潔	吉野 修一	西村 あい	
	粕谷 正臣	谷嶋重太郎	松長 弘樹	武内喜久江	
	武田 浩之	滝沢 貞蔵	石井 友之	桜井 岩雄	
	浅海 俊夫	志村 忠七	菊池 倫子	西村 光子	敬称略 順不同

資料をご寄贈いただき厚く御礼申し上げます。4年以降は次号以降でご紹介します。

ご寄贈いただいた資料は、今後「収藏品展」等でご紹介させていただきます。

### ❀❀利用状況❀❀

(単位:人)

月	一 般			団 体			共 通				そ の 他			合 計
	大 人	学 生・生 徒	児 童	大 人	学 生・生 徒	児 童	大 人	学 生・生 徒	児 童	他館購入	招 待	免 除	入館者合計	
7月	2,002	223	407	648	5	52	1,311	65	73	1,272	278	1,375	7,711	
8月	3,397	622	792	279	0	72	1,018	155	179	2,307	294	1,050	10,165	
9月	3,711	305	563	186	54	1	1,137	28	48	2,236	470	1,704	10,443	

発行日 平成4年12月1日

発行 川越市立博物館

〒350 川越市郭町2丁目30番1号

T E L 0492-22-5399